

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器修理概論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	30回（60単位時間）	年間単位数	4 単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
基礎的な調整を理解したうえでの、実践方法、作業手順の組み立て、考え方などの応用法を、修理実演や動画も使用して解説。対面講義と動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。										
到達目標										
どんな状況でも修理対応ができる基礎力と、さまざまな楽器への応用力の修得。										

授業計画・内容	
【前期】1回目	フルート・クラリネット連動解析
【前期】2回目	木管楽器バランス調整、フルートバランス分析
【前期】3回目	フルート調整構造解説
【前期】4回目	フルート連動調整
【前期】5回目	クラリネット連動調整
【前期】6回目	フルートタンポ調整応用
【前期】7回目	アゴ調整
【前期】8回目	コルクタンポ調整
【前期】9回目	フルートキョコルク交換
【前期】10回目	フルートトリルキョ調整、ヘッドコルク交換
【前期】11回目	バネ交換調整
【前期】12回目	サクソネックコルク交換
【前期】13～16回目	サクソ連動調整
【前期】17～18回目	木管楽器作動調整
【前期】19回目	フルート嵌合調整
【前期】20回目	サクソ嵌合調整
【前期】21回目	木製管体嵌合調整
【前期】22回目	フルートリングキョタンポ調整
【前期】23回目	フルートノックピン調整
【前期】24～25回目	フルート調整応用
【後期】26回目	木製管体の息漏れ修理
【後期】27回目	ジョイントリング修理、バネ穴修正
【後期】28回目	ビッコロ調整
【後期】29回目	オーボエ、ファゴット調整
【後期】30回目	管楽器調整応用
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざまで、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器修理概論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	8回（16単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
基礎的な調整を理解したうえでの、実践方法、作業手順の組み立て、考え方などの応用法を、修理実演や動画も使用して解説。対面講義と動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
どんな状況でも修理対応ができる基礎力とさまざまな楽器への応用力の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	ハンダ付け セッティング、マウスパイプ交換
【前期】 2～3回目	ヘコ出し
【前期】 4回目	ホルン ストップパー交換、トロンボーンスライド停止帯コルク交換
【前期】 5回目	ロータリー調整
【前期】 6回目	トロンボーンスライド調整
【後期】 7回目	ウォーターキー調整
【後期】 8回目	固着修理
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざまで、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	管楽器商品知識Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	15回（30単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
ホルン・トロンボーン・ユーフォニウム・チューバ・オーボエ・ファゴット・マーチングブラス・アクセサリーの楽器・製品説明を、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
楽器の特徴・メカニズム・システムから、メーカーごとの特徴・売りなど、販売修理知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホルン概要・製品解説
【前期】 5～8回目	トロンボーン概要・製品解説
【後期】 9回目	ユーフォニウム概要・製品解説
【後期】 10～11回目	チューバ概要・製品解説
【後期】 12回目	オーボエ概要・製品解説
【後期】 13回目	ファゴット概要・製品解説
【後期】 14回目	マーチングブラス概要・製品解説
【後期】 15回目	アクセサリー製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	異なる楽器でもその特徴などは類似する点が多いので、常に関連付けて考えられるように取り組むこと。講義だけでは活きた情報にはならないので、自ら楽器店などでその製品の特長などを観察・試奏することも重要になる。
使用教科書	「管楽器価格一覧表」ミュージックトレード社、「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、各メーカーカタログ、資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器業界知識Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	5回（10単位時間）	年間単位数	0単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
面接の実践練習や電話応対方法を具体的に学ぶほか、企業による製品、技術セミナーを行う。										
到達目標										
就職活動や楽器専門知識の実践と、実際の応用方法を理解する										

授業計画・内容	
【前期】 1回目	就職講座：電話応対
【前期】 2回目	就職講座：面接実践
【前期】 3回目	管楽器業界の企業による仕事解説、製品、技術セミナー
【後期】 4回目	管楽器業界の企業による仕事解説、製品、技術セミナー
【後期】 5回目	管楽器業界の企業による仕事解説、製品、技術セミナー
評価方法	平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	業界の実際を知り、自分の望む進路を見据えた活動に取り組んでもらいたい。
使用教科書	適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器リペアⅡ-A		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	207回（414単位時間）	年間単位数	13単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 15年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
フルート・クラリネット・サックスの修理方法の実践。指定課題を指定期限内に提出することで、現場での納期と作業計画、接客対応をシミュレーションさせる。					
到達目標					
1年次の基礎を元に、より早く、より正確に楽器調整を完了させる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～136回目 【後期】 137～207回目	フルート：タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換 キィコルク交換・バネ調整・パーツ交換（85回）
	クラリネット：タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換 バネ調整・パーツ交換（72回）
	サックス：タンポ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換 バネ調整・パーツ交換（50回）
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。また、オーボエの基礎演奏の履修も含む。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	木管楽器修理概論Ⅱ、金管楽器修理概論Ⅱと同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器リペアⅡ-A		授業形態 / 必・選	実習 必修	
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	60回（120単位時間）	年間単位数	4 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 15 年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
トランペット・トロンボーン・ホルンの修理方法の実践と工具製作。指定課題を指定期限内に提出することで、現場での納期と作業計画、接客対応をシミュレーションさせる。					
到達目標					
1年次の基礎を元に、より早く、より正確に楽器調整を完了させる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～30回目 【後期】 31～60回目	トランペット：ハンダ付け・拔差管調整・ピストンバルブ調整・パーツ交換 （22回）
	トロンボーン：スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換 （10回）
	ホルン：ロータリーバルブ調整・拔差管調整・パーツ交換 （6回）
	金管楽器：ヘコ出し （6回）
	工具製作 （16回）
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。また、トロンボーンの基礎奏法の履修も含む。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	木管楽器修理概論Ⅱ、金管楽器修理概論Ⅱと同様

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	管楽器選択リペア-A		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	61回（122単位時間）	年間単位数	4 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 15 年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
内容は原則として木管楽器リペア実習Ⅱ、金管楽器リペア実習Ⅱに準ずる。 各自が任意の修理作業を選択し、修理技術の向上を追求する。					
到達目標					
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。					

授業計画・内容	
【後期】 1～61回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換 木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換 木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換 金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換 金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換 金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換 金管楽器リペア ヘコ出し その他 金属加工、ダブルリード楽器修理
備考	履修期間内で、任意の課題を選択する。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	木管楽器修理概論Ⅱ、金管楽器修理概論Ⅱと同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期ウインドアンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 36年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。									
授業概要										
吹奏楽曲の合奏。										
到達目標										
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	選択前期木管室内楽Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1 単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 20 年 ライブやコンサート出演のほか、劇伴、CM、ドラマ、アルバムレコーディング、コンサートサポートなどに参加。									
授業概要										
木管楽器室内楽曲の合奏。										
到達目標										
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3 D、別紙譜面を配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	選択前期金管室内楽Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1 単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 2 2 年 ライブサポート、レコーディング、パーティ、テーマパーク、学校公演などさまざまな現場で活動中。									
授業概要										
金管楽器室内楽曲の合奏。										
到達目標										
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3 D、別紙譜面を配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	選択前期ビッグバンドアンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 20 年 学生時代より、ライブやTVでの仕事を始める。2006年メジャーデビュー。その後、アンサンブルやジャズ奏法のレッスンにも力を入れる。現在、トラック制作や、ナレーションの仕事にも携わっている。				
授業概要					
ビッグバンド楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3 D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期管楽器リペアⅡ		授業形態 / 必・選	実習 選択						
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 15年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。									
授業概要										
管楽器リペアの内容は原則として木管楽器リペアⅡ-A、及び金管楽器リペアⅡ-Aに準ずる。										
到達目標										
管楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	フルート：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・バランス調整 クラリネット：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・キィコルク交換・バランス調整・ジョイントコルク交換 サクソ：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 トランペット：掃除・オイルアップ・ハンダ付け トロンボーン：スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 ホルン：ロータリー分解組立・掃除・オイルアップ・紐交換
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	木管楽器リペアⅡ-A、金管楽器リペアⅡ-Aと連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	木管楽器修理概論Ⅱ、金管楽器修理概論Ⅱと同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期ウインドアンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	22回（44単位時間）	年間単位数	1単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 36年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。									
授業概要										
吹奏楽曲の合奏。										
到達目標										
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期木管室内楽Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	22回（44単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 20年 ライブやコンサート出演のほか、劇伴、CM、ドラマ、アルバムレコーディング、コンサートサポートなどに参加。				
授業概要					
木管楽器室内楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	選択後期金管室内楽Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2 年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	22回（44単位時間）	年間単位数	1 単位					
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 2 2 年 ライブサポート、レコーディング、パーティ、テーマパーク、学校公演などさまざまな現場で活動中。									
授業概要										
金管楽器室内楽曲の合奏。										
到達目標										
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3 D、別紙譜面を配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	選択後期ビッグバンドアンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	22回（44単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 20 年 学生時代より、ライブやTVでの仕事を始める。2006年メジャーデビュー。その後、アンサンブルやジャズ奏法のレッスンにも力を入れる。現在、トラック制作や、ナレーションの仕事にも携わっている。				
授業概要					
ビッグバンド楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3 D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期管楽器リペアⅡ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	22回（44単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 1 5 年 都内の楽器店に勤務後、修理工房を独立開業。現在に至る。				
授業概要					
管楽器リペアの内容は原則として木管楽器リペアⅡ-A、及び金管楽器リペアⅡ-Aに準ずる。					
到達目標					
管楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	フルート：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・バランス調整 クラリネット：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・キィコルク交換・バランス調整・ジョイントコルク交換 サクソ：分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 トランペット：掃除・オイルアップ・ハンダ付け トロンボーン：スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 ホルン：ロータリー分解組立・掃除・オイルアップ・紐交換
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	木管楽器リペアⅡ-A、金管楽器リペアⅡ-Aと連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	木管楽器修理概論Ⅱ、金管楽器修理概論Ⅱと同様